

参考資料 (2)

～ ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの社会貢献活動 ～

ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ^{*i} (以下、ジョンソン・エンド・ジョンソン) では、企業活動を通じて「顧客」、「従業員」、「地域社会」および「株主」に対する責任を果たしていくべきであるという経営理念「我が信条 (Our Credo)」に基づき、事業活動を推進しています。

ジョンソン・エンド・ジョンソンは、「我が信条 (Our Credo)」の第三の責任「地域社会に対する責任」を果たすため、よりよい社会を目指すとともに、よき企業市民として、だれもが健やかな毎日を過ごせる社会の実現を目的に、「ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会」(以下、JJCC) を結成しています。

JJCC は、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 代表取締役社長の日色 保をチェアマンとして、グループ各社から自発的に応募した約 140 名の社員ボランティアによって運営され、地域に密着したパートナー団体との協力関係を通じて、身体や心、社会の健康をテーマとしたさまざまな取り組みをサポートしています。JJCC による社会貢献活動の優先的な支援領域は、「子どもたちへの支援」「女性への支援」「東日本大震災復興支援」の 3 つです。これらの領域で有意義な活動を展開する非営利団体 (NPO 等) への支援を行っています。なお、当グループでは、社会貢献に対する考え方や活動内容をまとめた「社会貢献レポート 2017」を発行し、当社ウェブサイトで公開しました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン 社会貢献レポート 2017

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 代表取締役社長の日色 保は、以下のように述べています。「当グループは、日本でも活発に社会貢献活動を進めており、「我が信条 (Our Credo)」にもあるように、社会貢献に関わるのが義務感ではなくカルチャーとして定着しています。その基礎にあるのは、企業として「良き市民」でありたいという想いです。社会的責任 (CSR) という概念は、いまや企業社会にとって常識となっていますが、当グループでは実に 70 年以上前から、それを変わらぬ行動規範として社員が胸に刻んでおり、さまざまな活動の支援を通じて、これからも地域社会とともに歩んでまいります。」

以下、日本における当グループの主要な社会貢献プログラムをご紹介します。

【東日本大震災復興支援 : TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム】

ジョンソン・エンド・ジョンソンは、公益財団法人米日カウンセラー ジャパンが運営する TOMODACHI イニシアチブ^{*ii}とのパートナーシップのもとで企画、実施する「TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム」への支援を 2015 年から開始しました。日本の看護学生の災害対策分野での専門知識の深化、および次世代を担うリーダーシップ育成を目的に、東日本大震災の被災地域に住む看護学生を対象に年一回、看護学教員の指導者とともに米国に派遣し、国内研修と併せて 7 か月間におよび災害看護に関する研修を受けていただいています。本プログラムは、これまでの 3 年間で累計 28 名の東北出身の看護学生に対し、学びの機会を提供してきました。また、終了後も本プログラム経験者は関係者の支援の下、継続して災害看護に関連する活動に取り組んでいます。今年を対象をさらに広げ、現在全国各地で看護師を目指す、岩手・宮城・福島県出身の学生、および現在同三県に居住している看護学生から参加者を募り、7 名の学生が参加予定です。

【子どもたちへの支援：人身取引被害者支援プロジェクト】

ジョンソン・エンド・ジョンソンでは、人身取引被害者サポートセンター「ライトハウス」に協力して、商業的な性的搾取の実態の共有から、予防、被害児童への支援など、子どもを性的搾取から守るためのセミナーを実施しています。主に子どもに関わる仕事に従事する大人が 100 人以上参加し、理解を深めています。また、このような問題に取り組む人のネットワークを日本国内に広げています。

【女性への支援：DV 等によりトラウマを抱える女性が回復するためのよりよい環境を整えるプロジェクト】

DV や虐待、モラル・パワーハラスメントなどの被害にあった女性を対象に、特定非営利活動法人「レジリエンス」と協力し、トラウマへの対処法を提供する「こころの care 講座」の開催や、ファシリテーターの養成を実施しました。これにより、よりよい支援を受けられる被害者の数を、現状より年間 30,862 人増やすことができました。

【写真を投稿することで支援したいプログラムに寄付できる Donate a Photo プロジェクト】

ジョンソン・エンド・ジョンソンが提供する無料のモバイルアプリ「Donate a Photo」を導入し、そこにスマートフォンなどで撮影した写真を投稿すると、投稿者が支援したいと思う社会貢献プログラムに、ジョンソン・エンド・ジョンソンが投稿者に代わって 1 枚につき 1 ドルを寄付します。寄付は、病気の子どもやその家族の支援、東北への食糧支援などさまざまな支援プログラムに役立てられます。これまでに世界中で約 19 万人以上が参加し、300 万枚以上もの写真が投稿され、その結果、175 のプログラムへの支援を実現しました。

【公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金への協力】

ジョンソン・エンド・ジョンソンは 2016 年より、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（以下、「GHIT ファンド」）の趣旨に賛同してアソシエートパートナーとして参画し、資金拠出しています。GHIT ファンドは、HIV/AIDS、結核、マラリア、顧みられない熱帯病等のとくに開発途上国の人々を苦しめる感染症の制圧を目指し、日本の技術、知見、イノベーションを用いた治療薬、ワクチン、診断薬の開発を目的として設立されました。日本政府、製薬会社、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、ウェルカムトラスト公益信託団体、国連開発計画などが参画するグローバルヘルス分野の製品開発に特化した国際的な官民パートナーシップです。当グループは GHIT への支援を通じて、日本のイノベーションおよび投資をグローバルに拡大し、発展途上国における感染症や貧困に取り組む国際的協働を積極的に推進しています。

【ネパールでの口唇口蓋裂の治療支援プログラム】

ジョンソン・エンド・ジョンソンとして最も重要なのは、「世界中でより良い健康を促進する」ことです。当グループでは特定非営利活動法人「アドラ・ジャパン」がネパールで展開する口唇口蓋裂医療チーム派遣事業に 1996 年から助成しています。医療や情報が行き届かない地域に、口唇口蓋裂の治療を行う医療チームを派遣し、また医療従事者ではないボランティアが、医療従事者やスタッフをサポートすることで、恵まれない環境にいる子供や若者が無料で手術を受けられるように、継続的に医療チームやボランティアの派遣を支援しています。

【医療と子どもたちをつなぐブラック・ジャック セミナー】

ジョンソン・エンド・ジョンソンは 2011 年より、全国の病院と共催で、毎回約 30 人の子どもたちに手術を体験してもらう「ブラック・ジャック セミナー」を開催しています。このセミナーは、将来を担う子ども達に医師の仕事に対する夢と希望を抱いて欲しいという想いから始まったもので、地域の子どもたちが本格的な医療を疑似体験することで、将来の医療の発展に貢献してもらえることを目的としています。

ⁱ ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループは、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社（コンシューマー カンパニー、メディカル カンパニー、ビジョンケア カンパニー）、ヤンセンファーマ株式会社で構成。ジョンソン・エンド・ジョンソン ウェブサイト <https://www.jnj.co.jp/>

ⁱⁱ TOMODACHI イニシアチブは、東日本大震災後の復興支援から生まれ、教育、文化交流、リーダーシップといったプログラムを通して、日米の次世代のリーダーの育成を目指す公益財団法人 米日カウンシル－ジャパンと東京の米国大使館が主導する官民パートナーシップで、日本国政府の支援も受けています。日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、より協動的で繁栄した安全な世界への貢献と、そうした世界での成功に必要な、世界中で通用する技能と国際的な視点を備えた日米の若いリーダーである「TOMODACHI 世代」の育成を目指しています。TOMODACHI イニシアチブウェブサイト www.tomodachi.org/ja